

令和4年度 事務点検・評価報告書

目 次

◆ 教育委員会の点検・評価制度の概要	1
◆ 評 価 委 員 の 点 検 ・ 評 価	2
◆ 教育委員会の活動状況及び活動概要	7

【学 校 教 育 課】

◇ 道 徳 心 の 高 揚	11
◇ 豊 かな 心 の 育 成	12
◇ 確 かな 学 力 の 育 成	13
◇ 健 や かな 体 の 育 成	14
◇ 生 徒 指 導 体 制 の 確 立	15
◇ 安 全 教 育 の 推 進	16
◇ 坂 町 学 び の ア ン ケ ー ト 結 果	17

【生 涯 学 習 課】

○ 地 域 文 化 の 保 存 、 継 承	19
○ 生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実	20
○ 生 涯 ス ポ ー ツ の 推 進	22
○ ウ オ ー キ ン グ の 推 進	23
○ 生 涯 学 習 施 設 の 有 効 活 用	24

教育委員会の点検・評価制度の概要

1 点検評価の趣旨

平成 20 年 4 月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務付けられた。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 対象年度

令和 4 年度

3 点検・評価の対象事業

点検・評価の対象は、坂町長期総合計画並びに教育行政方針に準ずる各事業の経営目標を定め、各事業の取組等について点検・評価を行う。

4 点検評価の方法

点検評価は、各事業で評価指標等を設定し、次の評価基準に従って評価する。

区分	内 容
A	目標値：＋10 ポイント以上
B	目標値：＋10 ポイント未満・－10 ポイントを超える
C	目標値：－10 ポイント以下・－20 ポイントを超える
D	目標値：－20 ポイント以下

※ただし、事業によっては、別に評価基準を定める。

評価委員の点検・評価

はじめに

令和4年度の教育委員会事務点検・評価では、昨年度に引き続き、評価委員へのヒアリングを実施している。このヒアリングにおいて、評価委員は「4 点検評価の方法」について説明を受けるとともに、【令和4年度 点検評価票】について詳細な説明を受けて、質疑応答を行った。とりわけ、各点検評価票をめぐっては、「4 成果と課題・改善策」について率直な意見交換を行った。その際には、坂町の取り組む重要施策の成果が、現在のおかれた困難な状況を踏まえて実施された結果であり、その課題認識が示されているのか、また、それを受けて令和5年度に向けての改善策となっているのかといった点を大切に意見交換した。その際に、評価委員は、坂町の「現在のおかれた困難な状況」として、昨年度と同様、平成30年の西日本豪雨被害を踏まえた取組、及び新型コロナウイルス感染防止対策の進捗状況を踏まえた視座への配慮について強く意識した。

なお、「教育委員会事務自己点検・評価」の評価結果の妥当性及び改善策の有効性については、ヒアリングにおいて意見交換することを通して修正点を確認した。その結果、本報告書においては、これまで用いてきた評価指標である「B：評価は妥当である。」とともに「B：改善策は有効と考えられる。」以上となるように修正されていることを確認することができた。

評価指標

区分	評価の妥当性：改善策の有効性
A	評価は極めて妥当である。：改善策は極めて有効と考えられる。
B	評価は妥当である。：改善策は有効と考えられる。
C	評価は妥当とはいえない。：改善策は有効と考えられない。
D	評価は全く妥当とはいえない。：改善策は全く有効と考えられない。

(1)「道徳心の高揚：『礼節』を基本とした教育の推進」について

令和4年度においても小学校・中学校ともに9割以上の肯定的な回答が維持されており、評価できる。『坂町道徳教育推進協議会』を中心とした『坂町礼節週間』への取組や『考え、議論する道徳』の授業改善を積極的に推進できている」ことを大切に、これまでの成果を継続できるよう、また、コロナ禍にあっても、ICTの効果的な活用をはじめ、保護者・町民を巻き込む工夫を進めるよう期待したい。各小中学校、教育委員会事務局がともに当事者意識をもって、「坂町礼節週間」や「道徳参観日」の情報発信・相互交流を推進し、今後も、児童生徒を主人公とした坂町独自の有効な手立ての特定・集中すべき取組について継続して取り組んでほしい。

(2)「豊かな心の育成：郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」について

令和4年度の取組でも、「未だコロナ前のような形に戻っていない現状が続いている」こ

とや「コロナ禍における授業の展開では、声を出して発音する学習や積極的なコミュニケーションによる体験活動等が制限され、授業展開が困難な状況」にあることが窺える。そのような状況にあっても、「総合的な学習の時間や防災教育等で郷土に係る学習を積み上げている」ことが報告されている。昨年度に引き続き「1人1台のタブレットを活用してペアで紹介動画を送信・相互評価を行う等工夫することができた」と報告されているように、着実な取組を今後も期待したい。コロナ禍での授業展開の困難な状況を克服するという学校の取組を支える教育委員会事務局の姿勢に大いに期待したい。

(3)「確かな学力の育成：基礎的・基本的な知識・技能の定着」について

「確かな学力の育成」にあたっては、昨年度に引き続き「児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行った成果」が指摘されている。さらなる高みを目指し、「個に応じたきめ細やかな指導を充実させることができ」、令和3年度に引き続いての教育委員会としての取組支援（「小学校専科指導(理科、英語)や学校間連携(算数)、指導方法改善(算数)に係る加配」など）の成果が窺える。「確かな学力」を身に付ける主人公が児童生徒であることを尊重し、「主体的に学ぶ児童生徒を育成」する改善策となるよう支援の在り方を提案し、それに係る財政的な裏付けを確保できるように、引き続き首長部局に積極的にアピールしていただきたい。

(4)「健やかな体の育成：体力・運動能力の向上」について

昨年度に引き続き「『体力づくり改善計画』を活用した授業づくりや運動の日常化、部活動(中学校)の充実が、児童生徒の運動機会の増加や運動に対する意欲につながっている」ことが成果として述べられており評価できる。令和5年度も「今後、1人1台のタブレット端末を活用することで、自己目標の設定や記録への挑戦などを視覚的に捉えることができるよう支援して、意欲のさらなる向上及び体力・運動能力の向上を図る」とされる。また、令和4年度からの「小学校教科担任制推進加配(体育科：横浜小配置)を中心に、体力向上の取組を町内全校で共有」する取組が有効と考えられるので、首長部局により一層積極的にアピールして、今後の取組につなげていけるよう大いに期待したい。

(5)「生徒指導体制の確立：積極的生徒指導の充実」について

いじめ問題の未解決件数が昨年度に引き続き0件であることや、規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的回答が高い割合であることは評価できる。もっとも、「新型コロナウイルスに係る自宅待機や欠席等による生活リズムの乱れや、学校生活に対する意欲の低下など」を要因として不登校の児童生徒数の割合の増加は残念である。令和5年度においても、チーム学校として、生徒指導の三機能を生かした予防的積極的な生徒指導の取組を推進し、「授業や部活動、各種行事等をコロナ前の姿に少しずつ戻し、児童生徒の健やかな学びを保障することで、生活リズムの改善及び学習意欲の向上を図る」ため、

教育委員会としての施策の展開の「見える化」や「教員の働き方改革」推進の情報発信にも努め、「児童生徒の健やかな学びを保障する」ことを大いに期待したい。

（６）「安全教育の推進：防災教育の充実」について

「防災合言葉の実施により、児童生徒が平成 30 年豪雨災害について理解するとともに、避難行動の大切さを考える機会となった」ことを風化させないように今後も期待したい。また、「ひろしまマイ・タイムライン」の活用による各家庭における避難行動について考えたことや、風水害の前触れや被害について正しく理解して防災意識を高めたことについて、継続して児童生徒の防災意識の向上につながるように取り組んで欲しい。「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」（県）の指定事業を活用しての「防災教育」の推進に、児童生徒が自分事と捉え「自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力」を育成する視点が育つよう、研究推進リーダー教員を中心にした単元開発には、引き続き期待したい。それとともに、保護者・地域住民を巻き込んで「自助」と「共助」の精神を育む取組となるよう、教育委員会の「公助」の視点を検討するよう引き続き期待したい。

（７）「地域文化の保存、継承：坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成」について

新型コロナウイルスの影響でイベントが中止されるなかにあって、開催できたイベントの満足度調査は目標値を上回っており、関心・意欲の肯定的回答割合も目標値に近い。これまでも改善策において指摘されていた「新規参加者を増やす取組」「広く意見を求め設置できる場所等を再検討」などについても継続するとともに、コロナ禍で中止となった「小中学生と自主グループとの交流」の在り方や、Web 配信や「Web での開催や、対面での感染予防対策の徹底による開催」の在り方について、さらなる検討を期待したい。そして、生涯学習者である町民を主人公にする視点を生かして「案内看板の動画」の作成でつかんだ手応えを糧に、坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成に今後も期待したい。

（８）「生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実：図書館サービスの向上」について

「新型コロナウイルスの影響」のある中でも、図書館サービスに努め、「図書等貸出冊数」や「年間一人あたりの貸出冊数」の実績値が回復し、また、利用件数が減少したとはいえ「ネット予約サービスの利用」が継続して活用されたことや、コロナ対策を取りつつ「図書館こどもまつり」の開催など、図書館と町民利用者を繋ぎ、図書館について広く情報発信できたことは評価したい。今後も、図書館と町民利用者をつなぐ取組に大いに期待したい。その際、これまでも指摘したが、図書館の活動が図書館に留まるのではなく、「学習機会の提供」における「講座内容」と連携して図書館情報を提供するなど、生涯学習者へのサービスも引き続き検討され、学校図書館とのネットワーク化を推進して「学校教育」において重点的に取り組んでいる「道徳心の高揚」や「郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」の事業とも連携して展開していく視点も大切にしていきたい。

(9)「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」について

新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた事業もあるなかでも、「感染症予防対策を徹底しながら予定通り開催することができた」経験を踏まえ、5類となるコロナウイルス対応において、町民の健康を考えながら開催できる方法を模索し続けていくことを期待したい。「ホームページや公式 LINE 等によるこまめな情報発信」に努めることにも、大いに期待したい。スポーツ推進委員に紹介できた「障害者スポーツの指導員養成講習会や研修会」の成果を生かして、町民全員を巻き込む生涯スポーツの推進を目指して欲しい。その際、これまでも指摘したが、西日本豪雨の被害のなか、町民を勇気づける取組に取り組んだ経験を生かし、今後も事業充実に努めて生涯スポーツの推進の施策が、坂町の保健・医療・福祉など、他部局とも結ばれて展開されることを期待したい。

(10)「ウォーキングの推進：『坂町悠々健康ウォーキング大会』の充実」について

坂町の「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」という中期・短期経営目標にあって、令和2年度から特色ある事業として、経営目標に挙げられており、坂町といえば「ウォーキング」を印象づけるものと評価できる。残念ながら、大会は4回続けて中止となったが、令和4年度においても開催中止に至るまでの過程で検討してきた「取組・方策」を踏まえて、「ウォーキング大会の開催の在り方」や「新しい魅力的なイベント」等について、実行委員会や関係団体、関係各課等と検討・協議を行うことを期待するとともに、そこで得られた「情報発信」の在り方や「大会運営の工夫・改善」に係る叡智が他の生涯学習の事業に参考となるように「熟議」されるものであるように期待したい。

(11)「生涯学習施設の有効活用：町民交流センターの活用促進」について

避難所開設や新型コロナウイルスの影響などで、施設利用人数は目標値を大きく下回ったものの、昨年度と同様に、Facebook のアクセス数は順調に増加している（目標値より 31 ポイント上回る）。令和5年度に向けて、事業運営に児童生徒をはじめ町民の生の声を反映しようとしていることには大いに期待したい。また、コロナ禍における「生涯学習施設の有効活用」に向けてのヒントとして、地域に密着した開かれたホールを目指した取組や坂町内外への情報発信に地道に取り組まれ、町民交流センターが坂町の生涯学習推進のシンボルとなるよう、その利用にかかる施策や取組に一層期待したい。

おわりに

以上、各項目に即して点検評価の結果に基づいて意見を述べた。最後に、報告書全般に関わって意見を述べ、今後期待したい点について指摘したい。

坂町における「教育委員会事務自己点検・評価」は充実した自己点検評価が継続されている。そのようななかでも、西日本豪雨災害（平成30年度）や令和2年度以降の新型コロナウ

ウイルス感染防止の取組の困難さを踏まえ、坂町に住まう・憩う・働く人々の大切にしてきた価値に注目して優先順位をもって取り組まれてきていることに敬意を表したい。今後においても、点検評価の結果が、町民における学校教育・生涯学習の充実に向けて、町民と「ともに」より一層の改革・改善につながるための工夫に引き続き尽力していただきたい。

そのため、第一に、成果指標（アウトカム）としての視点から評価に至ったエビデンス（証拠）に掲げる数値目標の設定について点検と精緻化を図っていただいているところであるが、これまでも指摘してきたように、量的に示された数値目標を補って、質的にどのように変容したのかを分析し、事業の目標に対して有効な施策であったのか、検証していくことを引き続き期待したい。第二に、教育委員会の事業実施にあたっては町の他部局の事業との関連性をもって展開できているかについて意識して取り組んできた点を活かして、引き続き、町民の学校教育・生涯学習の推進に寄与できる取組・方策の充実に努めていただきたい。その際には、それらの事業実施にあたって、町民を単なる「お客さん」に位置づけることなく、町民こそが「主人公」として「ともに」事業を実施していることとなっているかどうかを常に意識していただきたい。

最後に、説得力のある自己点検評価報告書が、坂町住民の共有財産となるよう、これまで同様に、次の点には引き続き期待したい。第一に、坂町独自の特色をもつ事業施策について点検評価して町民に積極的に情報発信し、町民が主人公となる事業施策であることをアピールして欲しい。第二に、学校教育の充実について、設置者としての事業展開が学校現場による真摯な取組を通じて実現できることを踏まえ、設置者の視点を明確にした具体的な支援策をもって学校現場の支援の充実により一層努めて欲しい。

坂町教育委員会事務局には、そのような期待に応えていただき、首長部局に対して財政的な裏付けを確保して、教育委員会の事業展開におけるPDCAサイクルを実働させ、学校教育・生涯学習の主人公である学習者の支援に、また、その学びを支える教員をはじめとする指導・支援者の支援に、今後も引き続き努められることを一層期待したい。

【評価委員】

広島大学 名誉教授 林 孝

教育委員会の活動状況及び活動概要

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

教育委員は、町長が議会の同意を得て任命した教育長及び4名の委員により構成する。
令和5年3月31日現在の教育委員は、次のとおりである。

職 名	氏 名	性別	任 期
教育長	枝 廣 泰 知	男	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日
教育長職務代理者	松 村 英 勝	男	令和元年12月17日 ～ 令和5年12月16日
委 員	埤 本 友 造	男	令和2年12月5日 ～ 令和6年12月4日
委 員	平 沖 純 子	女	令和4年4月1日 ～ 令和8年3月31日
委 員	向 井 智 恵	女	平成31年4月1日 ～ 令和5年3月31日

(2) 教育委員会会議の開催状況 13回（定例会12回、臨時会1回）

(3) 教育委員会会議での議案の審議状況 議決の状況（令和4年度）12件

番号	議案名	可決日	備 考
13	令和4年度教職員研修の方針について	4月19日	
14	坂町社会教育委員の委嘱について	4月19日	
15	令和5年度使用中学校用教科用図書の採択基本方針について	5月19日	
16	令和3年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について	6月21日	
17	坂町社会教育委員の委嘱について	6月21日	
18	令和4年度坂町教育委員会経営計画・主要施策について	7月19日	
19	令和5年度使用特別支援学級用教科用図書採択について	8月30日	
20	坂町教育委員会後援等の承認に関する取扱要綱の制定について	9月20日	
1	令和5年度坂町教育行政方針について	2月9日	
2	学校における働き方改革取組方針の一部改訂について	2月9日	
3	令和5年度県費負担教職員人事について	3月10日	
4	坂町社会教育委員の委嘱について	3月22日	

(4) 議案以外の報告・協議状況

月 日	報告・協議内容
4 月 19 日	○令和4年度第1回広島県市町教育長会議について ○坂町教育委員会事務局事務分掌について ○令和3年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について
5 月 19 日	○全国町村教育長会第64回定期総会並びに研究大会について ○令和3年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について ○令和4年4月補正予算について
6 月 21 日	○広島県町教育長会会議及び第65回広島県町教育長会定期総会について ○第1回西部教育事務所管内教育長、部・課長等合同会議について ○令和4年度坂町教育委員会経営計画・主要施策について ○6月議会定例会一般質問での質疑応答等の概要について
7 月 19 日	○令和4年度第1回市町教育長ミーティングについて ○「坂町防災の日」の取組について ○議員全員協議会（7月1日）について
8 月 30 日	○中国五県町村教育長研究大会について ○市町村教育長・教育委員研究協議会について ○第1回坂町の教育を考える会について ○令和4年9月議会提案見込事項について ○全国学力・学習状況調査について
9 月 20 日	○最近の教育の動向について ○令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について ○議会について
10 月 18 日	○教育長ミーティング（10月11日）について ○議会（10月14日）について ○令和4年度教育委員会の事務の執行状況（中間）について
11 月 15 日	○広島県町教育長会研修会について ○西部教育事務所管内教育長・部・課長等合同会議について ○市町村教育委員会研究協議会（第2ブロック）長崎大会について ○広島県女性教育委員グループ第2回研修会について ○令和4年12月坂町議会定例会提案見込事項 ○物価高騰に伴う給食費の追加支援について
12 月 20 日	○教職員先進地視察研修について ○令和5年度坂町教育行政方針について ○12月議会定例会について
1 月 17 日	○令和5年坂町成人式等について ○令和5年度坂町教育行政方針について
2 月 9 日	○令和4年度第2回広島県市町教育長会議について
3 月 10 日	○令和5年度教育に関する大綱、町長施政方針及び教育行政方針について
3 月 22 日	○第3回坂町の教育を考える会について ○3月議会定例会及び予算審査特別委員会について ○3月議会臨時会について

2 教育長・教育委員の活動概要

(1) 各種会議への出席

会 議 名	出席者	実施月日	開催地	備考
令和4年度第1回広島県市町教育長会議	教 育 長	4月15日	広島市	
全国町村教育長会第64回定期総会並びに研究大会	教 育 長	5月16日 5月17日	東京都	
令和4年度広島県町教育長会会議等	教 育 長	5月27日	広島市	
令和4年度第1回広島県西部教育事務所管内教育長、部・課長等会議	教 育 長	5月30日	呉 市	
令和4年度市町村教育長・教育委員研究協議会（Web会議）	教 育 長	7月28日	坂 町	
令和4年度町教育長会議（Web会議）	教 育 長	8月10日 11月4日 12月21日 1月10日 1月31日 3月1日	坂 町	
令和4年度中国五県町村教育長会研究大会	教 育 長	8月18日 8月19日	山口県	
令和4年度広島県町教育長会研修会	教 育 長	10月21日	坂 町	
令和4年度広島県女性教育委員グループ第2回研修会	平沖委員 向井委員	10月25日	大崎 上島町	
令和4年度市町村教育委員会研究協議会（第2ブロック）長崎大会	教 育 長 松村委員 埴本委員	10月30日 11月1日	長崎県	
令和4年度第2回広島県西部教育事務所管内教育長、部・課長等会議	教 育 長	11月9日	呉 市	
安芸郡教育長会議	教 育 長	11月18日	府中町	
令和4年度先進地視察研修	教 育 長	12月9日	岩手県	
令和4年度第2回広島県市町教育長会議	教 育 長	2月2日	広島市	
令和4年度広島県市町教育委員研修会	教 育 長 全 委 員	2月3日	広島市	

(2) 教育委員の学校等訪問

訪問日	訪問先	内 容
5 月 19 日	小屋浦小学校	○ 交通安全教室参観及び意見交換
6 月 21 日	坂中学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換
9 月 20 日	坂小学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換
1 月 17 日	横浜小学校	○ 校長による学校経営方針について ○ 授業参観及び意見交換

(3) 教育委員の社会教育施設等訪問

視察日	視察場所	内 容
5 月 19 日	災害伝承ホール	○ 施設見学及び意見交換
7 月 19 日	町民センター	○ 施設見学及び意見交換
8 月 30 日	Sunstar Hall 留守家庭児童会 (コミュニティーホール さか及びひまわり児童会)	○ 施設見学及び意見交換
10 月 18 日	図書館	○ 施設見学及び意見交換
11 月 15 日	B & G 海洋センター	○ 施設見学及び意見交換

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	道徳心の高揚
短期経営目標	「礼節」を基本とした教育の推進

1 具体的なねらい

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、「考え、議論する道徳」の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。

2 取組・方策

(1) 「礼節」を基本とした教育を推進

教職員と児童生徒間及び児童生徒相互の信頼関係を構築し、発達段階を踏まえた丁寧な指導を教育活動全体を通して粘り強く繰り返し実践する。

(2) 坂町道徳教育推進協議会の開催（3回／年）

本協議会で研究を深め、道徳的な課題を児童生徒一人一人が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」への授業改善を図る。

学校・家庭・地域との連携・協力を大切にするとともに、「坂町礼節週間」「道徳参観日」を積極的に情報発信し、相互交流の場を設定する。ICTの活用も意識し、情報発信を工夫する。

(3) 道徳教育推進教師を中心とした取組

道徳教育推進教師を中心とし、時と場に応じた挨拶や言葉遣いのできる「礼儀」、立場をわきまえ、よく考えて行動する「節度」を全ての教育活動で育成する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査 (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容：17・18頁参照 1「礼節」2「道徳」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校：92.6% ・中学校：97.0%	○肯定的な回答の割合 ・小学校：91.4%(-1.2) ・中学校：97.5%(+0.5)	A

※評価方法…A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- アンケートの調査結果では、小・中学校ともに目標値と同等の結果を得ることができた。小・中学校とも9割以上の肯定的な回答が近年維持されている。
- 成果が維持されている要因として、「坂町道徳教育推進協議会」を中心とした「坂町礼節週間」への取組や「考え、議論する道徳」の授業改善が積極的に推進できていると考えられる。
- コロナ禍のため道徳参観日は実施できなかったが、児童生徒の家庭や地域での様子を撮影し、授業で交流するなど、ICTを効果的に活用し、道徳教育の取組を保護者や地域に発信することができた。
- 「礼節」を基本とした教育を推進するため、令和5年度以降も、坂町礼節週間や道徳参観日の開催、道徳ノート・学校通信等の取組を進める。

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	豊かな心の育成
短期経営目標	郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進

1 具体的なねらい

郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を育成する。また、異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する態度を育む教育を推進します。

2 取組・方策

(1)「地域とともにある学校づくり」の推進

地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進する。また、地域行事や活動、文化等に興味をもち、それを大切にすることを通して、郷土を愛する心の醸成を図る。

(2) 坂町外国語教育研修の開催

教職員の英語力・実践的指導力の向上を図るとともに、経験の異なる教員が互いに学び合う授業実践研修を充実させる。(3回/年)

「ミート・ザ・ワールド・イン・サカ(グローバル・キャンプ)」を開催し、英語で外国人と交流する体験活動の機会を提供することにより、英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成を図るとともに、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する。(1回/年)

(3) 外国語推進リーダー・外国語活動講師の配置

外国人外国語活動講師や日本人外国語活動講師、小学校専科教諭(外国語推進リーダー)、充実したスタッフを配置し、連携を密にしながら子供たちの英語による表現力の向上、英語を用いたコミュニケーション力を育む活動を充実させる。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査 (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容: 17・18頁参照 3「郷土愛・グローバル化」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 77.0% ・中学校: 84.0%	○肯定的な回答の割合 ・小: 69.4%(-7.6) ・中: 62.9%(-21.1)	B

※評価方法…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

- 肯定的な回答が小学校で5.1ポイント、中学校では14.0ポイント目標値を下回った。
- 郷土愛については、総合的な学習の時間や防災教育等で郷土に係る学習を積み上げている。しかしコロナ禍において、子供たちが楽しみにしていた行事や活動が、未だコロナ前のような形に戻っていない現状が続いている。今後、ポストコロナにおいても、郷土愛の醸成につなげることができるような行事の開催方法を、学校と連携し協議する。
- 外国語推進リーダー等の専門的な知識・技能を有する講師を配置し、生きた英語を直接体験することで、子供たちの英語による表現力の向上や教職員の授業力の向上につながった。
- コロナ禍における授業の展開では、声を出して発音する学習や積極的なコミュニケーションによる体験活動等が制限され、授業展開が困難な状況であった。このような中、1人1台のタブレットを活用してペアに紹介動画を送信・相互評価を行う等工夫することができた。今後は、外国語やその背景にある文化、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、外国語で表現することの楽しさや意味について、児童生徒とともに考えていきたい。
- 今後、ICTを効果的に活用した授業づくりを含め、授業の改善・工夫に努め、日々の生活の中で郷土愛の醸成及びグローバル化教育の推進を図る。

令和 4 年度 点検評価票

中期経営目標	確かな学力の育成
短期経営目標	基礎的・基本的な知識・技能の定着

1 具体的なねらい

基礎・基本的な知識や技能の定着を図り、加えて学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育成する。

2 取組・方策

(1) 坂町 ICT 教育フォーラムの開催（3 回／年） 町内全教職員で坂町教育の方針や方向性を共有し、外部の有識者等を招聘した専門性の高い研修を実施することで、各学校の課題解決や坂町教育の研究を深める。
(2) 坂町小中連携研修の充実 「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業（県）」「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業（県）」「坂町『学びの変革』推進協議会（県）」等、合わせて 8 つの事業において、児童生徒一人一人に基礎的・基本的な内容の定着を図り、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
(3) 坂町標準学力調査の実施 町内の全児童生徒を対象に学力調査を実施し、その結果を分析するとともに一人一人の課題や取組方針等を明確にしながら、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行う。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①基礎学力の定着・向上 ○全国学力・学習状況調査（全国平均値との比較） ・小学校：国語、算数 《調査対象：小 6》 ・中学校：国語、数学 《調査対象：中 3》	①全国平均値（実施年度数値） ・小学校（国語、算数、理科） ・中学校（国語、数学、理科）	①全国学力・学習状況調査（全国平均値との比較） ・小 6：国（+4.4）、算（+4.8）理（+4.7）、 ・中 3：国（+6.0）、数（+8.6）理（+2.7）、	A
②主体的な学びの充実 ○坂町学びのアンケート調査（過去 3 年間の平均値比較） ※アンケート内容：17・18 頁参照 4「授業（学び）」に関する質問	②肯定的な回答の割合 ・小学校：87.3% ・中学校：95.1%	②肯定的な回答の割合 ・小学校：80.3%(-7.0) ・中学校：86.3%(-8.8)	B
③ICT 教育の推進 ○坂町学びのアンケート調査（過去 3 年間の平均値比較） ※アンケート内容：17・18 頁参照 7「情報教育（ICT）」に関する質問	③肯定的な回答の割合 ・小学校：77.8% ・中学校：86.5%	③肯定的な回答の割合 ・小学校：86.9%(+9.1) ・中学校：91.7%(+5.2)	B

※評価方法①…A：+5 ポイント以上、B：平均値以上、C：平均値未満、D：-5 ポイント以下

※評価方法②③…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○「全国学力・学習状況調査」では、全教科において全国平均値を上回ることができた。特に中学校数学においては、全国平均値を 8.6 ポイント上回った。坂町主催研修において、児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導について協議を行った成果である。 ○令和 4 年度では、小学校専科指導（理科、英語）や学校間連携（算数）、指導方法工夫改善（算数）に係る加配を配置し、積極的な授業改善や課題等の明確化及び課題解決を図るとともに、取組の成果等を町内全校で共有し、個に応じたきめ細かな指導を充実させることができた。 ○ICT を効果的に活用し基礎学力の定着・向上を図ることができたが、学ぶ意欲においては、低下傾向であった。今後は、授業の中での ICT 活用のバランスについても重点を置きたい。また令和 5 年度は、坂町小中の信頼関係を基にした連携を充実させ、主体的に学ぶ児童生徒を育成したい。
--

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	健やかな体の育成
短期経営目標	体力・運動能力の向上

1 具体的なねらい

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 取組・方策

(1) 学校教育活動全体での取組

体力づくりを体育・保健体育科の授業はもとより、総合的な学習の時間、特別活動、部活動、始業前、昼休み、放課後等の教育活動全体で取組の充実、運動の日常化を図る。

(2) 坂町体力づくり研修の開催（3回／年）

小中学校合同の研修会において、各種データの分析や各校の取組等について情報交換し、体育主任の専門性や実践力の向上に努めるとともに、「小学校教科担任制推進加配（体育科）」を中心に体力向上及び体育科授業等の工夫・改善を図る。

(3) 「体力づくり改善計画」の活用

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった課題解決を図るため、各校が「体力づくり改善計画」を作成し、発達の段階に応じた運動の実践を行う。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○新体力テスト (全国平均値比較) 【テスト種目】 ※対象:小5、中2	○小中学校…体力合計点 (令和4年度全国平均値比) ・小学校男子: 52.28/80点 女子: 54.31/80点 ・中学校男子: 41.04/80点 女子: 47.42/80点	○体力合計点 小学校男子: 57.17(+4.89) 女子: 58.81(+4.50) 中学校男子: 43.27(+2.23) 女子: 47.08(-0.34)	B

※評価方法 … 「基準評価」

4 成果と課題・改善策

- 令和4年度は、小学校教科担任制推進加配（体育科：横浜小配置）を中心に、体力向上の取組を町内全校で共有し、運動機会の増加や体力・運動能力の向上を図ることができた。令和5年度以降も引き続き、小学校教科担任制推進加配を要望していきたい。
- 全国的に体力合計点が低下傾向にある中、坂町においては、小学校において、大幅に全国平均値を上回ることができた。
- 今後も引き続き、「体力づくり改善計画」を活用した授業づくりや運動の日常化、部活動（中学校）の充実を継続し、児童生徒の運動機会の増加や運動に対する意欲の向上につなげたい。
- 1人1台のタブレット端末を活用することで、自己目標の設定や記録への挑戦などを視覚的に捉えることができるよう支援して、意欲のさらなる向上及び体力・運動能力の向上を図る。

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	生徒指導体制の確立
短期経営目標	積極的生徒指導の充実

1 具体的なねらい

一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。

2 取組・方策

- (1) 坂町生徒指導連絡協議会の開催（7回／年）
各小中学校の生徒指導主事を対象に、理論研修、授業観察、実態交流等を行い、生徒指導方針（基準の明確化）の共通理解を図り、予防的積極的な取組を意識し、指導力の向上及び生徒指導体制の機能化を目指す。
- (2) 「いじめアンケート」の実施（3回／年〔6・11・2月〕）
児童生徒及び保護者を対象にアンケートを実施するとともに、アンケート結果から全児童生徒の個別面談を丁寧に行い、いじめの早期発見、早期対応、真の解決に努める。
※いじめ未解決件数については、参考として示す。
- (3) 教育相談体制の確立
教職員に加えて、心理の専門家であるスクールカウンセラーや福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーとともに、児童生徒の様々な情報の整理統合やアセスメント、支援計画等の作成を早期に行い、教職員が組織的に支援できる体制を確立する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①規範意識・自己肯定感の醸成 ○坂町学びのアンケート調査 (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容：17・18頁参照 5「学校生活」に関する質問	① 肯定的な回答の割合 ・小学校：92.2% ・中学校：96.6%	① 肯定的な回答の割合 ・小：90.0%(-2.2) ・中：94.0%(-2.6)	B
②不登校の児童生徒数の割合 (令和3年度との全国平均値比較)	②不登校の割合 (100人あたりの不登校児童生徒数) ・小学校：全国1.30人 ・中学校：全国5.00人	② 不登校の割合 ・小：2.19人(+0.89) ・中：7.98人(+2.98)	C

※評価方法① … A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

※評価方法② … A:-1.5ポイント以下、B:-1.5ポイント以上0ポイント未満、C:0ポイント以上+2ポイント未満、D:+2ポイント以上

4 成果と課題・改善策

- 年3回実施した「いじめアンケート」の結果から個別面談や聞き取り等を丁寧に行い、早期に発見し対応したことや「チーム学校」としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した教育相談体制を確立できたため、いじめの未解決件数0件に繋がったと考えられる。
- 規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的な回答が小学90.0ポイント、中学校は94.0ポイントと高い数値を維持している。
- 令和4年度の不登校児童生徒数の割合は、令和3年度の全国平均値より、小学校で0.89ポイント、中学校で2.98ポイント上回った。主要要因としては、新型コロナウイルスに係る自宅待機や欠席等による生活リズムの乱れや、学校生活に対する意欲の低下などが考えられる。今後は、ポストコロナにおいて、授業や部活動、各種行事等をコロナ前の姿に少しずつ戻し、児童生徒の健やかな学びを保障することで、生活リズムの改善及び学習意欲の向上を図る。また、チーム学校として、学級担任や養護教諭を中心に児童生徒の心身の状況、人間関係、身なり、言動等を丁寧に観察するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと積極的に連携し、支援を行う。さらに、不登校SSR（スペシャルサポートルーム）推進校を中心とした、不登校の未然防止及び不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を行う。

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	安全教育の推進
短期経営目標	防災教育の充実

1 具体的なねらい

自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安心・安全な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養う。

2 取組・方策

(1) 「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」(県)の充実

平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育を推進し、生涯にわたる防災対応能力の基礎を育成するとともに、復興に向けて心身ともにたくましく生き抜く力を育む防災教育を推進する。

また、町内施設の活用を図り、自他の命を大切にし、思いやる力を育むとともに、防災教育における「自助」の力と「共助」の精神を育み、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

(2) 「ひろしまマイ・タイムライン」作成の推進

「ひろしまマイ・タイムライン」を活用し、各家庭における避難行動について考えるよう支援することで、風水害の前触れや被害について正しく理解するとともに、防災意識を高める。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(2年目) (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容: 17・18頁参照 6「防災教育」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 89.8% ・中学校: 97.0%	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 86.6%(−3.2) ・中学校: 92.5%(−4.5)	B

※評価方法 …A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 防災合言葉の実施により、児童生徒が平成30年豪雨災害について理解するとともに、避難行動の大切さを考える機会となった。
- 「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」(県)では、坂中学校を中心に防災教育の単元開発を行うことができた。「防災に強い町づくりを目指して、ふるさと坂のために自分たちにできること」を考える取組により、中学校において92.5%の肯定的回答を得ることができた。
- 各学校において、「ひろしまマイ・タイムライン」を活用し、各家庭における避難行動について考えることができた。風水害の前触れや被害について正しく理解するとともに、防災意識を高めることができた。
- 令和5年度も、引き続き県指定事業の「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」を活用し、生活科・総合的な学習の時間を軸とした取組を推進する。教職員の先進地視察(岩手県)研修を生かし、研究推進リーダー教員を中心とした防災教育における単元開発を行い、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

坂町 学びのアンケート集計 (小学校)

実施日：令和5年2月

実施校：坂小学校・横浜小学校・小屋浦小学校

実施人数：136人

1 「礼節」に関する質問		●肯定 89.9% ◆否定 10.1%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。				128	94.1 %	8	5.9 %
(2) 心のこもったあいさつをしている。				124	91.2 %	12	8.8 %
(3) 物を大切に、整理整頓をすることを心がけている。				112	82.4 %	24	17.6 %
(4) 学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。				123	90.4 %	13	9.6 %
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。				124	91.2 %	12	8.8 %
2 「道徳」に関する質問		●肯定 92.8% ◆否定 7.2%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。				127	93.4 %	9	6.6 %
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。				119	87.5 %	17	12.5 %
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。				134	98.5 %	2	1.5 %
(4) 人の気持ちが分かる人間になりたい。				132	97.1 %	4	2.9 %
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。				119	87.5 %	17	12.5 %
3 「郷土愛・グローバル」に関する質問		●肯定 69.4% ◆否定 30.6%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。				98	72.1 %	38	27.9 %
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。				99	72.8 %	37	27.2 %
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。				94	69.1 %	42	30.9 %
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。				109	80.1 %	27	19.9 %
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。				72	52.9 %	64	47.1 %
4 「授業（学び）」に関する質問		●肯定 80.3% ◆否定 19.7%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。				116	85.3 %	20	14.7 %
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。				109	80.1 %	27	19.9 %
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。				106	77.9 %	30	22.1 %
(4) 落ち着いて勉強することができている。				120	88.2 %	16	11.8 %
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。				95	69.9 %	41	30.1 %
5 「学校生活」に関する質問		●肯定 90.0% ◆否定 10.0%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。				121	89 %	15	11 %
(2) 今の学級の一員でよかった。				123	90.4 %	13	9.6 %
(3) 自分には、よいところがある。				107	78.7 %	29	21.3 %
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。				130	95.6 %	6	4.4 %
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。				131	96.3 %	5	3.7 %
6 「防災教育」に関する質問		●肯定 86.6% ◆否定 13.4%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。				120	88.2 %	16	11.8 %
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。				122	89.7 %	14	10.3 %
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。				110	80.9 %	26	19.1 %
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。				120	88.2 %	16	11.8 %
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。				117	86 %	19	14 %
7 「情報教育（ICT）」に関する質問		●肯定 86.9% ◆否定 13.1%		肯定的回答		否定的回答	
				人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。				98	72.1 %	38	27.9 %
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。				121	89 %	15	11 %
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。				128	94.1 %	8	5.9 %
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。				113	83.1 %	23	16.9 %
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。				131	96.3 %	5	3.7 %

坂町 学びのアンケート集計（中学校）

実施日：令和5年2月

実施校：坂中学校

実施人数：123 人

1 「礼節」に関する質問		●肯定 98.2%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 1.8%	人数	割合	人数	割合
(1)	約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。		122	99.2%	1	0.8%
(2)	心のこもったあいさつをしている。		120	97.6%	3	2.4%
(3)	物を大切に、整理整頓することを心がけている。		119	94.1%	4	5.9%
(4)	学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。		121	98.4%	2	1.6%
(5)	相手に失礼のない言動を心がけている。		122	99.2%	1	0.8%
2 「道徳」に関する質問		●肯定 96.7%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 3.3%	人数	割合	人数	割合
(1)	道徳の勉強は、ためになると思う。		119	96.7%	4	3.3%
(2)	道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。		116	94.3%	7	5.7%
(3)	いじめは、どんな理由があっても許されない。		123	100%		
(4)	人の気持ちが分かる人間になりたい。		122	99.2%	1	0.8%
(5)	道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。		115	93.5%	8	6.5%
3 「郷土愛・グローバル」に関する質問		●肯定 62.9%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 37.1%	人数	割合	人数	割合
(1)	自分の地域の行事に参加している。		76	61.8%	47	38.2%
(2)	地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。		85	69.1%	38	30.9%
(3)	外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。		81	65.9%	42	34.1%
(4)	日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。		84	68.3%	39	31.7%
(5)	将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。		61	49.6%	62	50.4%
4 「授業（学び）」に関する質問		●肯定 86.3%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 13.7%	人数	割合	人数	割合
(1)	友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。		113	91.9%	10	8.1%
(2)	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。		112	91.1%	11	8.9%
(3)	自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。		105	85.4%	18	14.6%
(4)	落ち着いて勉強することができている。		105	85.4%	18	14.6%
(5)	失敗しても学ぶことはおもしろい。		96	78%	27	22%
5 「学校生活」に関する質問		●肯定 94.0%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 6.0%	人数	割合	人数	割合
(1)	学校での生活は楽しい。		113	91.9%	10	8.1%
(2)	今の学級の一員でよかった。		115	93.5%	8	6.5%
(3)	自分には、よいところがある。		109	94.1%	14	5.9%
(4)	学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。		122	99.2%	1	0.8%
(5)	人が困っているときは、進んで助けようとしている。		119	96.7%	4	3.3%
6 「防災教育」に関する質問		●肯定 92.5%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 7.5%	人数	割合	人数	割合
(1)	災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。		115	93.5%	8	6.5%
(2)	地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。		116	94.3%	7	5.7%
(3)	危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。		114	92.7%	9	7.3%
(4)	他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。		115	93.5%	8	6.5%
(5)	自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。		109	88.6%	14	11.4%
7 「情報教育（ICT）」に関する質問		●肯定 91.7%	肯定的回答		否定的回答	
		◆否定 8.3%	人数	割合	人数	割合
(1)	学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。		113	91.9%	10	8.1%
(2)	パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。		113	91.9%	10	8.1%
(3)	文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。		120	97.6%	3	2.4%
(4)	情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。		96	78%	27	22%
(5)	ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。		122	99.2%	1	0.8%

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	地域文化の保存、継承
短期経営目標	坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成

1 具体的なねらい

町民の郷土に対する歴史的理解を深めるとともに、後世へ文化を継承し、町民の文化意識の向上と町勢発展に努める。

2 取組・方策

(1) 主催行事等の充実とアンケート調査

主催行事等において、坂町の文化・歴史に対する関心が高まる内容を取り入れるとともに、事後アンケート調査を実施する。

○「坂町を知ろう」※6月25日、「ようよう坂町ウォーキング」※12月18日開催、「坂町悠々健康ウォーキング」※中止、「坂町文化祭」※11月6日開催、「芸術文化啓発事業」※12月11日開催

(2) 小中学生と自主グループの交流 ※中止

町内で文化的な活動を行う自主グループと協力し、小中学生を対象に後世へ文化の継承を目的とした体験会を定期的で開催し、若い世代に文化と接する機会を提供する。また、コロナ禍におけるイベントの在り方として、Web配信等の新たな取組で、交流の範囲を広げるとともに、参加者の増加を図る。

(3) 案内看板の設置

令和3年度に町内史跡案内看板事業が完了し、今後は設置した看板をイベントやウォーキング等で活用していく。また興味・関心を高めるため、看板までの道筋が分かる地図や動画等をホームページを利用して紹介をしていく。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①関心・意欲に関するアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・85%	①肯定的な回答の割合 ・84.4%(-0.6)	B
②行事に対する満足度調査 (過去2年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・90%	②肯定的な回答の割合 ・92.5%(+2.5)	A

※評価方法①②…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○開催できた一部イベントでの終了時アンケート調査結果では、関心・意欲に関する調査が目標値を0.6ポイント下回ったことに対して、満足度調査は目標値を2.5ポイント上回っており、昨年度実績値と比較すると8.0ポイント上回った。

○「ようよう坂町ウォーキング」のコースで坂町史に記載がある史跡等を取り入れ、説明を行った。令和5年度も引き続きイベント等に取り入れ、町史に係る関心を高めていくように努めていく。

○新型コロナウイルスの影響により開催できなかった事業は今後、5類への移行により開催できる可能性は高くなるが、引き続き注意をして判断を慎重に行う。また、授業等で町民センター展示室を活用してもらうなど、小中学生が文化とふれあえる場を引き続き提供していく。

○案内看板の動画は、編集に時間と技術を要したため、1ヶ所のみ作成した。また、看板までの道筋がわかる地図をホームページに掲載した。作成した動画は、坂町文化祭で紹介し、好評だった。町民からいただいた「どの辺りを歩いているのか分かるよう、地図等を画面上に表示すると臨場感がでる。」などの意見を参考に、令和5年度も動画作成等を継続し、地図以上に分かりやすい案内看板についての紹介がホームページ等できるよう、文化財保護委員とも進めていきたい。

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実
短期経営目標	図書館サービスの向上

1 具体的なねらい

町民に必要とされる図書館を目指し、ニーズと時代の変化に対応しながら、町民の自主的な学習・文化・余暇活動を支援する。

2 取組・方策

(1) イベント等啓発事業の充実

町立図書館と小屋浦ふれあいセンターにおいてボランティアによる読み聞かせ、職場(図書サービス)体験、ミニ絵本づくり等を行う「図書館こどもまつり」を開催し、子供と大人が読書の楽しさを知るきっかけをつくり、読書体験を深めるような機会を提供する。

(2) 情報発信の充実

「図書館のご利用のすすめ」を新たに作成し、転入者等へ随時配布する。また年代に応じた「図書館だより」を作成し、定期的に配布する。また、様々な世代に幅広い情報を提供するため、SNS等を効果的に活用した情報を発信するとともに、社会状況に応じた新たな取組の創出及び工夫・改善に努める。中でも、時間を問わず貸出予約が出来、希望の施設での受け取りが可能なインターネット予約サービスをより一層周知し、様々な図書館の利用方法があることを広める。

(3) 関係機関との連携・協働

保険健康課主管である乳児健診等を実施する際には、健診施設に移動図書館を設置するサービスを実施する等、関係機関と連携し読書活動を推進する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値(令和4年度)	実績値	評価
①図書等貸出冊数	① 42,302 冊	① 49,400 冊 (+17ポイント)	A
②年間一人当たりの貸出冊数	② 3.29 冊/年	② 3.84 冊/年 (+17ポイント)	A
③インターネット予約利用者数	③ 1,300 人/年	③951 人/年 (-27ポイント)	D

※①②:「日本図書館協会調査(全国市町村)」の前年度数値比較

4 成果と課題・改善策

- 令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症に伴う利用制限がなかったこともあり、図書等貸出冊数は、令和 3 年度の 41,774 冊から令和 4 年度の 49,400 冊と 18%増加し、目標値を 17 ポイント上回った。
もっとも、インターネット予約利用者は令和 3 年度の 1,476 件から令和 4 年度の 951 件と減少した。インターネット予約は希望の本を 1 週間取り置きできるメリットがあるが、令和 4 年度から通常利用を再開したことにより、来館したうえで実際に本を手にする利用者が多かったと思われる。今後はインターネット利用についての利便性や利用者の傾向等の情報を収集し、検証していきたい。
- 「図書館こどもまつり」については 3 年ぶりに開催することが出来た。開催場所は町立図書館のみとはなったが、3 日間を通して基本的に事前予約制とし、時間を分けて密にならないようにし、参加者にも安心して過ごしていただけるよう工夫した。
- 関係機関との連携事業である「はじめて絵本事業」等、一部の事業が中止となり、計画していたような読書活動の推進を図ることができなかったが、今後も関係機関と連携し、事業の再開にむけて調整していく。
- 情報発信については定期的な「広報さか」への掲載、「図書館だより」の配布を継続し、公式 LINE への配信も行い、アナログとデジタルでの複数の情報発信方法により、また発信回数を増やし、更なる利用者の増加につなげていきたい。
- 転入時や出生時の届け出の機会に、役場窓口での「図書館のご利用のすすめ」パンフレットを作成・配布することとし、新規利用者の増加を図る。
- 「読み聞かせ講座」と「折り紙体験」についてはコロナ対策を取りつつ開催し、コロナ禍前の状況にほぼ戻ったが、今後も参加者増加に向けた取組をしたい。そこで講座開催日時の設定や内容について検証し、より良いものにするため補助金等を活用して必要物品の充実を図る等行っていく。
- アンケートではオンライン検索を出来るようにしてほしい等既存のサービスを希望される声もあり、図書館での各種サービスの内容を改めて周知する必要があると感じられたことから、広報誌、公式 LINE を軸に積極的な周知に努め、利用者自らの学習・文化・余暇活動につなげていきたい。

令和 4 年度 点検評価票

中期経営目標	生涯スポーツの推進
短期経営目標	生涯スポーツ社会の実現

1 具体的なねらい

町民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指す。

2 取組・方策

- (1) 各種教室の充実とアンケート調査
各種教室でスポーツへの関心・意欲、健康増進への意識が高まるよう内容を工夫・改善し、事後アンケート調査を実施する。
○親子ふれあい体操教室（参加：24 組）※8/23～1/31 の間で 16 回中 16 回実施
○親子ふれあい水泳教室（参加：13 組）※7/5.8.12.15 4 回中 4 回実施
○小学生水泳教室（1 年：38 人、2・3 年生：50 人）※5/31～7/1 の間で 18 回中 18 回実施
○町内体育大会※中止 ○広島ベイマラソン大会等※中止
- (2) 各種教室・大会等の情報発信
坂町広報誌やホームページへの掲載及び関係機関等との連携を図り、町内外へ積極的に情報発信します。
○幼児・小学生を対象とした各種教室 ○町内体育大会、広島ベイマラソン大会等
- (3) 軽スポーツの普及
スポーツ推進委員へカラーリング等の軽スポーツの普及活動の協力要請を行い、軽スポーツの普及に努めます。
- (4) 障害者スポーツをスポーツ推進委員と民生課と県の担当部署との連携しながら、問題点などを詰めながら進めていく。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
① 各種事業のアンケート調査 (過去 3 年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・ 90%	①肯定的な回答の割合 ・ 90%	A
② 各種大会の満足度調査 (過去 3 年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・ 90%	②肯定的な回答の割合 ・ (中止)	—

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 「親子ふれあい体操教室」、「親子ふれあい水泳教室」、「小学生水泳教室」は感染症予防対策を徹底しながら予定通り開催することができた。
- 新型コロナウイルスの影響により、町外の方が利用できない状況が約 10 ヶ月間続いたが、2 月に制限を緩和した。5 月 8 日以降は感染症法の 5 類に引き下がるが、病原性や感染力は変わらないため、引き続いて、手指消毒・換気の徹底・3 密の回避を条件に必要な感染対策を講じながら施設の使用を許可し、判断を慎重に行う。令和 5 年度はより多くの方にスポーツを親しんでもらえるよう感染症予防対策、施設管理を努める。
- 各種教室・大会等の情報発信では、「広報さか」を通じて町民のスポーツ活動に対する意識の啓発・参加促進に努め、SNS 等を活用した発信も行うことが出来た。令和 5 年度は、スポーツイベント等の参加者が増えるよう、ホームページや公式 LINE によるこまめな情報発信に努めていく。
- 軽スポーツの普及のため、スポーツ推進委員によるカラーリング、ラダーゲッターの研修会を行った。また、カラーリングの大会も無事開催することが出来たため、令和 5 年度もスポーツ推進委員での研修会を重ねて軽スポーツの普及に努めていく。
- 障害者スポーツの指導員養成講習会や研修会についてスポーツ推進委員に紹介することが出来た。今後は実際に事業に参加したり、研修会などの実施をしたりできるよう民生課と連携して検討していく。

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	ウォーキングの推進
短期経営目標	「坂町悠々健康ウォーキング大会」の充実

1 具体的なねらい

ウォーキングを通じて健康でたくましい「こころ」と「からだ」をつくり、悠々とした心豊かな生活や郷土愛の醸成・地域の活性化を目指す。

2 取組・方策

- (1) 「坂町悠々健康ウォーキング大会」の情報発信
坂町広報誌やホームページ等への掲載及び関係機関等との連携を図り、坂町公式 LINE や d ボタン広報を利用して町内外へ積極的に情報発信する。また、小中学校や住民協へ依頼し、大会案内を各世帯へ配布する。
さらに、前回大会の参加者及びふるさと納税者には、早めに個別で大会案内を送付する。
- (2) 大会運営の工夫・改善
○参加人数の制限、分散スタート等、新型コロナウイルス感染拡大防止について実行委員会・関係団体、他課等と協議を行う。
○前回大会の反省点を改善し、他市町の大会を参考に、内容の更なる充実に努める。
○アンケートの回収率を高めるため、ゴール地点付近で実施する。
○健康チェック等の感染防止対策を行い、安心して参加できるように工夫する。
- (3) 活気とにぎわいの取組
○これまで行っていた各種測定及びカキ雑炊の給食は新型コロナウイルス感染拡大のリスクが排除できないが、単純に中止にするのではなく、代替で行える内容のイベントを協議する。
○食生活改善推進協議会：食に含まれる糖分の展示・野菜の摂取促進等指導は外のテント内で行うので、これまで通り実施するかどうか、同協議会の意見を聞いたうえで協議を行う。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値（令和元年度）	実績値	評価
「坂町悠々健康ウォーキング大会」参加人数	1,200 人	新型コロナウイルスの影響で中止	—
満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	80%	新型コロナウイルスの影響で中止	—

4 成果と課題・改善策

- 今年度も開催する予定で準備していたが、全国的にも新型コロナウイルスが収束しておらず、実行委員から意見を集約した結果、「規模を縮小して開催した方が良い」「人数制限をして開催すればいいのではないか」等の意見をいただいたが、「規模を縮小したとしても、全国的な収束がみられていない状況で大規模なクラスターが発生する危険はまだ残っている。」などの意見が大多数であったため、今年度の開催も見送ることとなった。
- 女性団体からは、これまで行ってきたカキ雑炊などの飲食については新型コロナウイルスの収束が見られないことから、開催できたとしても難しいということであった。ただし、飲食提供ではなく、芸州坂うどんの乾麺等の物販という形式であれば可能であるとのご意見をいただいた。
- 今回で4回連続の中止となり、運営等を経験していない職員が多くなった。令和5年度の開催については、5 類への移行により開催できる可能性は高くなるが、引き続き注意して実行委員及び各団体の皆様と慎重に協議しながら5年ぶりの開催に向けて進めていく。

令和4年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習施設の有効活用
短期経営目標	町民交流センターの活用促進

1 具体的なねらい

町民に親しまれ、スポーツ・文化活動の交流拠点として広く活用されるよう、関係機関と連携・協力し、利用促進に努める。

2 取組・方策

(1) 各種（主催）イベントの開催

目的を明確にし、町民の元気と意欲を高め、豊かな生活を送ることができる各種イベントを開催する。

- ワールドシップオーケストラコンサート 9月3日（土）
- 落語公演 9月23日（金・祝）
- 宝くじ文化公演 名曲歌酔いコンサート 11月27日（日）
- 共演 神楽の舞 12月17日（日）
- 坂町平和音楽祭 2月25日（日）
- その他【ピアノ試弾会（年3回、6月・10月・1月に実施）】

(2) 積極的な情報発信

ホームページや坂広報誌等への掲載や関係機関等と連携し、町内外への情報発信に努め、利用が見込まれる企業、学校関係のリストアップ行い、チラシやDMを配布するなどの利用促進を図った。また、instagram、坂町公式LINE、dボタン広報誌など、コロナ禍でも継続して発信できるソーシャルメディアを活用し、更なる利用促進に努めた。

(3) 地域に密着・開かれたホール運営

誰もが気軽に利用できる施設運営に努め、来館者へのアンケート調査を実施し、意見を反映させた。※交流スペースの開放、明るいロビー、音楽やDVDの常時放送などの工夫をした。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①施設利用人数（過去3年間の平均値比較）	①41,289人	①25,577人（－38.0ポイント）	D
②Facebookアクセス数（過去3年間の平均値比較）	②3,304件	②4,822件（＋31.0ポイント）	A
③満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	③77.2%	③93.7%（＋16.6ポイント）	A

4 成果と課題・改善策

- 施設利用人数は、目標値より38.0ポイント下回った。主な要因は、新型コロナウイルスの影響に伴う施設利用制限（町外団体は使用不可）によるものである。令和5年度においては5月以降の新型コロナウイルス感染予防対策緩和に伴う環境の変化や国・県の動向を注視し、行事やイベント開催について計画していくとともに町民が何を求めているかを考え、的確に把握していきたい。また、学校授業や行事、部活動等で施設を利用している児童、生徒が、大人になってもサンスタールームを「また利用したい」と思えるよう、子どもたちの意見も取り入れた事業運営を行う。
- Facebookのアクセス数は順調に増加し、目標値より31.0ポイント上回った。コロナ禍においても継続的にSNS発信を行ったことが主な要因である。また、Facebook・instagramや今年度開設された坂町LINE、dボタン広報誌も活用しながら、若者世代へ当ホールの周知を図ることも期待できるので、今後もイベント情報やトピックス等を適宜アップするとともに、アクセス数の増加を図る。
- 地域に密着・開かれたホール運営については、宝くじ文化公演、共演「神楽の舞」、坂町平和音楽祭のアンケート調査を実施することができ、93.7%の方から満足であるとの回答を得た。今後も事業開催を検証する上でも重要であることから、アンケート以外でも町民の生の声に直接耳を傾け、ニーズに応じた事業を展開していく。

